

序

平成 24 年度は、地方独立行政法人として新たな運営形態に移行してから 2 年目になるりんくう総合医療センターにとって、救命 I C U の増床工事や重症患者病床の施設整備が終了したばかりの大阪府立泉州救命救急センターとの統合に向けた診療連携や共同運営の模索に明け暮れた 1 年でした。ちょうどこの年は、昭和 27 年に開設した市立泉佐野病院から数えて 60 年、平成 9 年に現在地にりんくう総合医療センター・市立泉佐野病院として新築移転してから 15 年という記念すべき年でもありました。そのような経緯を振り返る間もなく、当院では医師や看護師不足の問題が解決できていない状態でしたが、二つの施設の職員全員が一丸となって走り続けたこの 1 年は、平成 25 年 4 月の統合に向けた新しい病院の中に、「協働」という強力な順風を吹き込む大仕事をした節目の年になったのではないかと感じています。

さて、改めてこの 1 年を振り返りますと、平成 24 年度は、業績不振であった昨年度の業務実績及び評価結果を踏まえ、より一層の経営改善に取り組むため、法人運営の基礎である理事会や診療における諸問題等を迅速に解決するため経営企画会議を開催するとともに、機動性・弾力性を活かした経営手法を用いて、質の高い医療の提供及び患者サービスの充実に努めてきました。中でも、高度医療機器等の整備については、医療機能の向上を図るため、安定した稼働が保証でなくなった放射線科の M R I を更新し、医療職等の人材確保については、関係大学に開設した寄附講座により医師派遣を受けるとともに、寄附講座以外にも大学病院等関係機関との連携により医師確保に努めました。また、当院は関西国際空港の搬送先指定病院の中で最も空港に近い位置にあることから、これまで関空から入国される外国人と在住外国人の診療で多くの実績をあげる一方で、英語、スペイン語、ポルトガル語、中国語などの医療通訳者の育成では草分け的存在であり、外国人患者受入医療機関認証制度の認証を受けたことで国際診療では全国の注目を集めています。さらに、地域医療機関等との連携については、大学の寄附講座より地元医師会の先生方を交えた合同研究会である第 1 回泉州地域医療フォーラムを開催しました。

特に、平成 24 年度の大きな課題であった救命救急センターとの統合に向けた取組みについては、平成 25 年 4 月からの統合を見据えて、救命救急センターの重症救急機能を拡充するため、これまで両病院が、各々に患者の重症度に応じて受入れを行っていた脳卒中や循環器疾患患者等の救急搬送受入れ窓口を救命救急センターに一元化し、救急体制を充実させました。この統合には、救命救急センターのスタッフが病院の救急診療と集中治療体制を支援し、さらには病院の各専門診療科が救命救急センターと密接に連携することにより良質な救急診療の提供を目指すなど、前年、前々年にはなかった救命救急センターとの密な協働による大きな効果が含まれています。

平成 25 年度以降には、研修センターの建設や地域医療ネットワークシステムの構築などの新たな事業を計画しています。高齢化社会が進み、今後の地域医療は迅速な変貌を余儀なくされると推測される中、この平成 24 年度の貴重な経験を生かして、南泉州地域における新たな、そして良質な地域医療の構築に向けて、より良い医療環境を整えるべく、今後とも尽力する所存ですので、引き続き、ご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

理事長 八木原 俊克